

目 次

■ 総 会		
第 33 回定時総会開催通知	-----	1
■ 学会賞		
2009 年度学会賞の決定について	-----	8
■ 年 会		
第 33 回年会案内 (最終プログラム)	-----	9
■ お知らせ		
メールマガジンの発刊について	-----	31
		頁総数 : 32

総 会

第 33 回定時総会開催通知

下記により、第 33 回日本科学教育学会定時総会を開催いたします。会員各位のご参加をお願いいたします。なお、ご参加されない場合には、同封の委任状にお名前、議案の賛否を記入し、ご捺印の上、50 円切手を貼って、折り返しご投函ください。

記

会員各位

2009 年 7 月 23 日
日本科学教育学会
会長 吉田 淳

日 時 : 2009 年 8 月 25 日 (火) 11:30 ~ 13:00
会 場 : 同志社女子大学 (〒 602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入)

提出議案

第 1 号議案	2008 年度事業報告及び収支決算書承認の件	2 頁
第 2 号議案	2009 年度事業計画及び予算案承認の件	5 頁
第 3 号議案	定款の変更承認の件	7 頁

第1号議案（案）

I. 2008年度（自2008年7月1日至2009年6月30日）事業報告書

2008年度に実施した事業は次のとおりである。（事業費6,285千円）

(1) 機関誌等

- 1) 「科学教育研究」第32巻第2号、第3号、第4号、第33巻第1号、第2号を刊行し、会員に配布した。
- 2) 「科学教育研究レター」No. 189～193、学会彙報、学会通信を刊行し、会員に配布した。
学会Webサイト (<http://www.jsse.jp/>) を運用した。
メールマガジン配信を6月8日より開始した。
- 3) 「年会論文集32」を刊行し、申込者に配布した。

(2) 年会

第32回年会（2008年8月21日（金）～8月23日（日））を岡山理科大学で開催し、研究発表・課題研究発表・シンポジウム・ワークショップ・インタラクティブセッション等を行った。

(3) 学術交流等

- 1) アジア等諸外国の科学教育学会との交流の推進について検討を行った。
- 2) 教科「理科」関連学会協議会に参加し、理科教育の発展充実を図った。

(4) 研究会活動：研究会を年5回開催した。

- 第1回：北海道支部「明日を拓く科学教育」、2008年11月8日（土）、北海道教育大学函館校
- 第2回：九州沖縄支部「科学教育の進歩と教員養成」、2008年11月15日（土）、長崎大学
- 第3回：南関東支部「新教育課程への移行と理数教育の充実」、2009年3月28日（土）、東京学芸大学
- 第4回：中国支部「ブレンド型授業による教育の充実と新しい科学教育」、2009年5月23日（土）、鳥取大学
- 第5回：東海支部「教師の資質開発とその方法」、2009年6月13日（土）、岐阜大学

(5) 支部活動：全国10支部の活動を行った。

(6) 学会賞

- 1) 学術賞を贈呈した。

三宅征夫（国立教育政策研究所）

業績：科学教育研究における学力に関する国際比較調査の確立

- 2) 論文賞を贈呈した。

三宅志穂（高知大学）、稲垣成哲（神戸大学）、野上智行（神戸大学）

受賞論文：三宅志穂・飯塚裕貴・稲垣成哲・野上智行 地域の環境啓発事業推進を支援するコミュニティ形成過程・兵庫県西宮市を事例とした検討、科学教育研究、第31巻、第4号、pp. 354-369、2007

山口悦司（宮崎大学）、中原 淳（東京大学）、望月俊男（東京大学）

受賞論文：山口悦司・中原 淳・西森年寿・望月俊男・中野真依・古田 豊・関根聖二・大房潤一・滝川洋二・山内祐平 おやこ de サイエンス：家庭における科学の学習環境の充実を支援する教育プログラム、科学教育研究、第30巻、第3号、pp. 145-158、2006

3) 年会発表賞を贈呈した。

奥山英登 (旭川市旭山動物園)

対象研究発表：旭山動物園と双方向遠隔授業！ i-ねっとわーく授業デモンストレーション

隅田 学 (愛媛大学教育学部)

対象研究発表：理科授業で学習困難や才能を示す児童生徒への特別支援の方策に関する研究 (2) - 困難児における理科の才能特徴 -

(7) 学会 I T 化

CMS 方式による Web サイトを学会の正式サイトとして公開し、運用した。また、会務の I T 化のための会務支援システムを運用した。

II. 2008 年度 (自 2008 年 7 月 1 日至 2009 年 6 月 30 日) 収支決算書

収支決算書は、松原静郎、鶴岡義彦監事の会計監査を受け、適正と認められた。

1 一般会計

【収入の部】

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算-予算)
(1) 会費	8,944,500	9,799,000	854,500
正会員会費	7,820,000	8,417,000	597,000
学生会員会費	212,500	224,000	11,500
公共会員会費	20,000	20,000	0
賛助会員会費	135,000	135,000	0
未納分会費	757,000	1,003,000	246,000
(2) 入会金	100,000	102,000	2,000
(3) 寄付金	0	0	0
(4) 広告料	120,000	165,000	45,000
(5) 購読料	400,000	553,900	153,900
(6) 著作権料	150,000	344,893	194,893
(7) 雑収入	670,000	1,828,961	1,158,961
(8) 学会活性化基金取崩し	0	0	0
(9) 基金取崩し	0	0	0
(10) 前年度繰越収支差額	4,302,643	4,302,643	0
収入合計	14,687,143	17,096,397	2,409,254

会 費 前 納 分	4,972,000
-----------	-----------

【支出の部】

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額 (予算-決算)
(1) 管理費	5,802,000	5,141,170	660,830
役員会議等会議費	170,000	0	170,000
旅費交通費	1,050,000	825,100	224,900
通信運搬費	340,000	168,800	171,200
消耗品費	20,000	5,790	14,204
印刷費	132,000	68,459	63,541
事務委託費	3,465,000	3,520,125	△ 55,125
I T調査・管理費	380,000	432,705	△ 52,705
負担金	95,000	50,000	45,000
雑費	150,000	77,225	79,815
(2) 事業費	6,543,600	6,285,705	257,895
科学教育研究誌	4,178,600	4,794,790	△ 616,190
レター・学会通信等	310,000	297,900	26,315
年会・学会賞	1,040,000	707,230	332,770
学術交流等	450,000	0	450,000
調査・研究	0	0	0
研究会・支部活動推進	565,000	500,000	65,000
(3) 学会活性化積立金	0	0	0
(4) 選挙管理積立金	250,000	250,000	0
(5) 予備費	2,091,543	0	2,091,543
支出合計	14,687,143	11,676,875	3,010,268
次年度繰越収支差額		5,419,522	

2 基金・積立金

【基金】 7,173,792

【大塚賞】 1,719,825

【学会活性化積立金】 273

【役員選挙積立金】 250,000

第 2 号議案（案）

I. 2009 年度（自 2009 年 7 月 1 日至 2010 年 6 月 30 日）事業計画書

2009 年度に実施する事業は次のとおりである。（事業費 6,340 千円）

(1) 機関誌等

- 1) 「科学教育研究」第 33 巻第 3 号、第 4 号、第 34 巻第 1 号、第 2 号を刊行し、会員に配布する。
- 2) 「科学教育研究レター」No. 194～198、学会彙報、学会通信を刊行・配布する。
学会 Web サイト (<http://www.jsse.jp/>) を運用する。
メールマガジンを配信する。
- 3) 「年会論文集 33」を刊行し、申込者に配布する。

(2) 年会

第 33 回年会（2009 年 8 月 25 日（火）～8 月 26 日（水））を同志社女子大学で開催し、研究発表・課題研究発表・シンポジウム・インタラクティブセッション等を行う。

(3) 学術交流等

- 1) アジア等諸外国の科学教育学会との交流の推進について検討を行う。
- 2) 教科「理科」関連学会協議会に参加し、理科教育の発展充実を図る。

(4) 支部活動

- 1) 全国 10 支部の活動を推進する。
- 2) 研究会を、以下の 6 支部において開催する。
東北支部、南関東支部、東海支部、北陸甲信越支部、中国支部、九州沖縄支部

(5) 学会賞

- 1) 学術賞を贈呈する。
川崎 謙（高知大学教育学部）
業績：科学教育における言語学的相対化と比較科学論の構築
- 2) 論文賞を贈呈する。
鈴木栄幸（茨城大学）、加藤 浩（放送大学）
受賞論文：鈴木栄幸・加藤 浩 社会的ネットワークに着目したプレゼンテーション教育手法「マンガ表現法」の提案、科学教育研究、第 32 巻、第 3 号、pp. 196-215、2008
- 3) 年会発表賞を贈呈する。
縣 秀彦（自然科学研究機構 国立天文台）
対象研究発表：市民とのリサーチ・コミュニケーション『アストロノミー・パブ』の評価
瀬戸崎典夫（九州大学大学院芸術工学府）、森田裕介（早稲田大学人間科学学術院）、
竹田 仰（九州大学大学院芸術工学研究院）
対象研究発表：高校生を対象とした VR 教材の効果的な活用場面に関する検討

(6) 学会 IT 化

CMS 方式による Web サイトを学会の公式サイトとして運用する。また、会員への情報伝達を円滑に行うための仕組みを工夫する。

Ⅱ. 2009年度（自2009年7月1日至2010年6月30日）収支予算書

1 一般会計

【収入の部】

科 目	予 算 額	備 考
(1) 会費	9,284,500	
正会員会費	8,160,000	8,000円×(1,200名×85%)
学生会員会費	212,500	5,000円×(50名×85%)
公共会員会費	20,000	20,000円× 1名
賛助会員会費	135,000	45,000円× 3名
未納分会費	757,000	2007年度実績
(2) 入会金	100,000	1,000円× 100名
(3) 広告料	120,000	1社
(4) 購読料	400,000	30件
(5) 著作権料	150,000	出版著作権、学術著作権、電子図書館
(6) 雑収入	900,000	別刷代、利息等
(7) 選挙管理費積立取崩し	250,000	
(8) 前年度繰越金	5,419,522	
収入合計	16,624,022	

【支出の部】

科 目	予 算 額	備 考
(1) 管理費	5,556,125	
役員会議等会議費	170,000	理事会・評議員会等開催費
旅費交通費	1,050,000	理事交通費等
通信運搬費	200,000	庶務・経理文書発送、会費請求等
消耗品費	10,000	文房具代
印刷費	82,000	封筒印刷費、振込用紙印刷費
事務委託費	3,394,125	庶務・会員・会計・編集事務委託
IT調査・管理費	473,000	年会申込、ドメイン料、Webサイト移設等
負担金	95,000	ICASE会費、日本学術協力財団
雑費	82,000	振込手数料、他
(2) 事業費	6,340,000	
科学教育研究誌	3,830,000	印刷費(年4回)、発送等
レター・学会通信等	310,000	通信印刷費(年1回)、発送、レター編集等
年会・学会賞	1,100,000	第34回年会補助、年会企画費、学会賞
学術交流等	450,000	国際交流、国内学術交流
調査・研究	0	
研究会・支部活動推進	650,000	研究会開催支援、会誌編集ソフト
(3) 学会活性化積立金	1,000,000	事業費充実
(4) 選挙管理費	590,000	印刷費、郵送料、委員旅費
(5) 予備費	3,137,897	
支出合計	16,624,022	

2 特別会計（大塚賞）

【収入の部】

【収入の部】		【支出の部】	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
前年度繰越収支差額	1,719,825	予備費	1,721,825
雑収入	2,000		
収入合計	1,721,825	支出合計	1,721,825

3 基金・積立金

【基金】 7,173,792 + 利息 【学会活性化積立金】 1,000,273 + 利息

【役員選挙積立金】 0

第3号議案（案）

I. 定款の変更

第22条の変更について

現行：定時総会は、毎年一回の事業年度終了後2ヶ月以内に招集しなければならない。

変更：定時総会は、毎年一回の事業年度終了後3ヶ月以内に招集しなければならない。

【変更理由】

昨今の大学における教育課程にともない夏季休業が8～9月になってきた大学が多いこと、また、夏季休業中に多くの大学において免許更新制講習の実施に伴い8月中の会場確保に支障が生じてきたなど、今後定時総会を年会に合わせて開催する可能性を担保するために、総会の招集時期に関する第22条の期間を延長することとした。

2009 年度学会賞の決定について

学会賞選考委員会では、会員からの推薦にもとづいて慎重に協議を重ね、候補者の選考を進めてまいりました。そして、第 236 回理事会の議を経て、以下の会員に学会賞を授与することを決定致しました。おめでとうございます。

【学術賞】

川崎 謙（高知大学教育学部）

学術研究題目： 科学教育における言語学的相対化と比較科学論の構築

選 定 理 由： 川崎会員は、本学会科学教育研究誌において 1999 年に「書物の隠喩に見る日本人の自然観」を、2001 年に「実験：その日本的様相」を発表され、その後も、本学会年会をはじめ国内外の研究大会にて、日本の伝統的自然観を理科という教科の中でどう取り扱うかに関する問題について数多く研究成果を発表してこられた。特に、日本の「自然」と西欧の「Nature」の違いを明確にすることで、非西洋語によって西洋科学を学ぶことの学問的議論の進展に大きく貢献された。また、川崎会員は、言語の違いと科学教育との関連について、国際学会等を通じて海外の研究者と活発に研究交流を行ってきたことも、日本の科学教育研究の国際化に大きく貢献してきたと評価される。こうした先導的・開拓的な功績を評価したものである。なお、過去 10 年間の業績には以下のものが含まれている。

- ・川崎 謙、『神と自然の科学史』、講談社選書メチエ、2005
- ・Kawasaki, K., A Cross-Cultural Comparison of English and Japanese Linguistic Assumptions Influencing Pupils' Learning of Science, "Canadian and International Education" 31(1), 19-51, 2002
- ・川崎 謙、実験：その日本的様相、科学教育研究 25(1)、2-10、2000
- ・川崎 謙・藤村修司・川原庸照、書物の隠喩に見る日本人の自然観、科学教育研究 23(1)、42-49、1999

【論文賞】

鈴木栄幸（茨城大学）、加藤 浩（放送大学）

受賞論文：鈴木栄幸・加藤 浩、社会的ネットワークに着目したプレゼンテーション教育手法「マンガ表現法」の提案、科学教育研究、第 32 巻、第 3 号、pp.196-215、2008

選定理由：本論文は、科学教育における教育方法研究の領域に対して、社会的ネットワークの観点から、従来にない画期的かつ独創的な教育手法としての「マンガ表現法」の提案をした点において、この分野の研究に優れた進展をもたらした。プレゼンテーションの技法を情報化社会に生きる市民に要求される必要不可欠なリテラシーとして位置づける中で、プレゼンテーション教育の重要性を指摘し、メッセージ構成の段階に焦点をあてた訓練法としての「マンガ表現」を提案するとともに、その実践的な有効性を丁寧に検証したものである。

（学会賞担当理事 小倉、美馬）

第33回年会案内（最終プログラム）

年会企画委員会・年会実行委員会

1. 年会テーマ：次世代の科学力を育てる
2. 日程：平成 21（2009）年 8 月 25 日（火）～ 26 日（水）
3. 会場：同志社女子大学 今出川キャンパス 純正館
 （〒 602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入）
 - ・アクセス方法
 JR「京都」駅から地下鉄烏丸線（国際会館行）に乗りして「今出川」駅で下車、3番出口（エレベーター有り）を上がって東（左手方向）へ徒歩5分。
 - ・訪問者用の駐車場がありませんので、必ず電車・地下鉄をご利用ください。
 - ・JR 京都駅には何カ所か改札口があります。一番東側にある改札口（新幹線の場合は東改札口）を出ますと、最短距離で地下鉄へ乗り継ぎます。
 - ・詳しくは、同志社女子大学／交通案内／今出川キャンパス（下記 URL）を参照して下さい。
<http://www.dwc.doshisha.ac.jp/access/access02.html>
4. 主催：日本科学教育学会
5. 後援：京都市教育委員会、京都府教育委員会
6. 日程

	前日 8/24(月)	1日目 8/25(火)	2日目 8/26(水)	
08:00				08:00
08:30			受付	08:30
09:00		受付	学会企画 課題研究発表 (2時間)	09:00
09:30		一般研究 発表 (2時間)	年会実行委員会 企画フォーラム2 (2時間)	09:30
10:00		学会企画課 課題研究発表 (2時間)		10:00
10:30		自主企画課 課題研究発表 (2時間)	休憩(15分)	10:30
11:00			科学教育研究セミナー [山口悦司](45分)	11:00
11:30			科学教育研究セミナー [三宅志穂](45分)	11:30
12:00		総会／表彰(昼食をとりながら) (1時間30分)	休憩 (1時間15分)	12:00
12:30				12:30
13:00			一般研究 発表 (2時間)	13:00
13:30		国際交流 委員会企画 (2時間)	インタラク ティブ セッション (2時間)	13:30
14:00		一般研究発表 (3時間)	年会実行委員 会企画フォーラ ム1(1時間)	14:00
14:30	各委員会 (1時間)			14:30
15:00	理事会 (1時間)	年会実行委員会 企画フォーラム1 (1時間)	休憩(15分)	15:00
15:30			自主企画課題研究発表 (2時間)	15:30
16:00	顧問・理事・評議員・ 支部長合同会議 (1時間)	学会企画シンポジウム (2時間)		16:00
16:30			実行委員会・企画委員会合同会議 (1時間)	16:30
17:00				17:00
17:30				17:30
18:00				18:00
18:30	若手の会 (2時間)	移動		18:30
19:00				19:00
19:30				19:30
20:00		懇親会 (2時間)		20:00
20:30				20:30
21:00				21:00
企業展示(2日間を通して終日)				

- 第 237 回理事会：8 月 24 日（月）15 時～16 時、純正館 5 階 S501 教室
- 顧問・理事・評議員・支部長合同会議：8 月 24 日（月）16 時～17 時、純正館 4 階 S401 教室
- 総会・表彰：8 月 25 日（火）11 時 30 分～13 時、K 会場（純正館地下 1 階 S013 教室）
- 各種委員会

開催が確定している委員会は以下の通りです。これ以外については、年会ホームページをご確認下さい。

- ◆広報委員会：8 月 24 日（月）14 時～15 時、純正館 5 階 S502 教室
- ◆編集委員会：8 月 24 日（月）14 時～15 時、純正館 5 階 S503 教室
- ◆年会企画委員会・年会実行委員会合同会議：8 月 26 日（水）17 時～18 時、純正館 5 階 S506 教室

7. 内容

■ シンポジウム

テーマ：生活と科学を結ぶ

日 時：8 月 25 日（火）16:15～18:15 K 会場（地下 S013 教室）

司 会：北原和夫（国際基督教大学）

1S1-K1 キッチンサイエンス：料理を題材とした科学の興味の喚起

○内田麻理香（東京大学・カソウケン（家庭科学総合研究所））

1S1-K2 生活と科学を結ぶ“くらしとバイオ”

○佐々義子（NPO 法人くらしとバイオプラザ 21）

1S1-K3 21 世紀の科学技術社会を生きるためのリテラシーを育む—中等教育カリキュラムの開発—

○竹盛浩二（広島大学附属福山中・高等学校）

1S1-K4 生活と科学を結ぶ教育の意味

○吉田 淳（愛知教育大学）

■ 学会企画課題研究

テーマ：新学習指導要領と ESD：理科を事例として

日 時：8 月 25 日（火）9:30～11:30 C 会場（4 階 S403 教室）

オーガナイザー：荻原 彰（三重大学）、加藤 浩（放送大学）

指定討論者：阿部 治（立教大学）

1A1-C1 小学校教育における ESD

○飯沼慶一（成城学園初等学校）

1A1-C2 ESD を意識した中学校理科学習—問題解決型学習での思考力育成を中心として—

○高城英子（松戸市立第一中学校）

1A1-C3 高等学校における持続可能な開発のための教育（ESD）—普通科高校の事例を通して新学習指導要領下での ESD を考える—

○川北裕之（千葉県立市川工業高等学校）

テーマ：新学習指導要領と科学教育研究：研究と実践の相互交流の視点から

日時：8月26日（水）8:30～10:30 F会場（3階 S301 教室）

オーガナイザー：清水 誠（埼玉大学）

指定討論者：小川正賢（東京理科大学大学院科学教育研究科）

2A2-F1 科学教育の新しい方向性

○清水 誠（埼玉大学）

2A2-F2 新学習指導要領における数学教育

○浪川幸彦（椋山女学園大学）

2A2-F3 小学校理科における子どもの科学概念構築の視点

○森本信也（横浜国立大学）

2A2-F4 「意欲」の研究を学習指導要領にどのように生かせばよいのか？

○鈴木 誠（北海道大学大学院理学院）

2A2-F5 学習指導要領改訂における情報教育

○小泉力一（尚美学園大学）

■ 招待講演「科学教育研究セミナー」

招待講演Ⅰ

日時：8月26日（水）10:45～11:30 F会場（3階 S301 教室）

司会：村山 功（静岡大学）

2I1-F1 家庭の科学教育をどのように支援できるか？：指導者がそばにおらず、装置や道具がほとんどない学習環境のデザイン研究プロジェクト「おやこ de サイエンス」の事例から

○山口悦司（宮崎大学）

招待講演Ⅱ

日時：8月26日（水）10:45～11:30 H会場（3階 S303 教室）

司会：佐伯昭彦（鳴門教育大学）

2I1-H1 環境学習支援コミュニティの形成プロセス —サイエンスコミュニケーションの目指す新しい連携と協働の形を模索するために—

○三宅志穂（神戸女学院大学）

■ 国際交流委員会企画セッション

テーマ：世界に発信したい日本の科学教育

日時：8月25日（火）13:00～15:00 C会場（4階 S403）

オーガナイザー：小倉 康（国立教育政策研究所）

1K1-C1 [趣旨説明] 世界に発信したい日本の科学教育

○小倉 康（国立教育政策研究所）

1K1-C2 提案1：ESD の実践から学ぶこと：多様性と持続可能性

○北原和夫（国際基督教大学）

1K1-C3 提案2：日本の科学教育研究が国際的な研究共同体に貢献できるためには

○小川正賢（東京理科大学大学院科学教育研究科）

1K1-C4 提案3：科学を文化として社会に浸透させるために

○渡辺政隆（（独）科学技術振興機構）

1K1-C5 提案4：政策としての科学技術人材育成

○内丸幸喜（（独）科学技術振興機構）

1K1-C6 提案5：日本の科学教育実践技術

○滝川洋二（東京大学）

■ 実行委員会企画フォーラム 1

テーマ：新時代に向けた基礎レベル科学実験題材と教材シリーズの開発

日時：発表 8月25日（火）15:00～16:00 8月26日（水）12:45～13:45

展示 大会期間中終日 L会場（3階 S307 教室）

1J1-L1 新時代に向けた基礎レベル科学実験題材と教材シリーズの開発

○大隅紀和（OES 研究所）、ポンパン（タイ教育省・科学技術教育振興研究所 IPST）、
ポンチャイ（タイ教育省・科学技術教育振興研究所 IPST）、ラウィワン（タイ教育省・科学
技術教育振興研究所 IPST）、ドンサモン（タイ教育省・科学技術教育振興研究所 IPST）、
タバチャイ（タイ教育省・科学技術教育振興研究所 IPST）、ナロン（タイ教育省・科学技術
教育振興研究所 IPST）

■ 実行委員会企画フォーラム 2

テーマ：持続的進化を遂げる科学技術の教育課程をどう構築するか

— For Excellence から For All に連なる科学技術教育課程の編成—

日時：8月26日（水）8:30～10:30 H会場（3階 S303 教室）

オーガナイザー：吉岡亮衛（国立教育政策研究所）、銀島 文（国立教育政策研究所）

2J2-H1 これからの科学教育と創造的科学技術人材育成

○伊藤 卓（横浜国立大学）

2J2-H2 「アドバンスング物理」研究から学んだこと

○村田隆紀（京都教育大学）

2J2-H3 「数学教育の現状—東北地方の中等教育と大学教育について」

○森田康夫（東北大学）

2J2-H4 創造的科学技術人材育成と情報教育カリキュラム

○寛 捷彦（早稲田大学）

2J2-H5 For Excellence をも展望する For All の科学教育課程編成の視点

○大高 泉（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

2J2-H6 イギリスにおける中等科学教育のイノベーション

○磯崎哲夫（広島大学大学院教育学研究科）

2J2-H7 シンガポール数学教育におけるカリキュラム編成の枠組み

○清水美憲（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

2J2-H8 アメリカ BSCS における教育研究とカリキュラムの統合の歴史

○丹沢哲郎（静岡大学）

2J2-H9 [指定討論者] “教育の世界”（知識の体系化の再構築）“研究の世界”とを統合する科学技術教育課程編成の構想—統計教育を事例に—

○木村捨雄（鳴門教育大学）

■ 自主企画課題研究

===== 【1日目：午前】 8月25日（火）9:30 - 11:30 =====

テーマ：インタラクション・デザイン・学習

日時：8月25日（火）9:30～11:30 D会場（4階 S404 教室）

オーガナイザー：稲垣成哲（神戸大学大学院人間発達環境学研究所）

指定討論者：佐伯 胖（青山学院大学）

1B1-D1 [趣旨説明] インタラクション・デザイン・学習

○稲垣成哲（神戸大学大学院人間発達環境学研究所）

1B1-D2 Kit-Build 方式による概念マップのインタラクティブな活用

○舟生日出男（広島大学大学院工学研究科）、福田裕之（広島大学大学院工学研究科）、山崎和也（広島大学大学院工学研究科）、平嶋 宗（広島大学大学院工学研究科）

1B1-D3 実空間と仮想空間を結んだインタラクティブな学習のデザイン

○森田裕介（早稲田大学）、瀬戸崎典夫（早稲田大学）、岩崎 勤（(株) ケイ・ジー・ティー）、竹田 仰（九州大学）

1B1-D4 携帯端末を用いたナビゲーションにおける観察活動を促進することを目的とした情報提示

○荻野哲男（神戸大学）、鳩野逸男（神戸大学）、鈴木真理子（滋賀大学）、楠 房子（多摩美術大学）

1B1-D5 聴覚障害者のための課外授業デザインの提案と実践

○高橋 徹（東京工業大学）、生田目美紀（筑波技術大学）、楠 房子（多摩美術大学）、小野 功（東京工業大学）、寺野隆雄（東京工業大学）

テーマ：科学教育における学校現場での『学び合い』の実践的課題

日時：8月25日（火）9:30～11:30 E会場（4階 S405 教室）

オーガナイザー：三崎 隆（信州大学）

1B1-E1 仮説設定場面における「4QS ワークシート」を用いた学び合いに関する事例的研究

○若月利春（上越教育大学教職大学院）、水落芳明（上越教育大学教職大学院）

1B1-E2 『学び合い』による中学校理科授業における自己評価

○中井弘子（川口市立安行中学校）、西川 純（上越教育大学教職大学院）

1B1-E3 『学び合い』における子どもの意識に対する研究

○桐生 徹（松川町立松川中学校）、三崎 隆（信州大学）、西川 純（上越教育大学）

1B1-E4 大学院生の『学び合い』に関する研究その2—大学院生の理科授業への不安と共に—

○牧島 司（信州大学大学院）、三崎 隆（信州大学）

1B1-E5 相互に認識している「教え子」と「学び手」の座席位置に関する研究

○川上早苗（信州大学）、三崎 隆（信州大学）

1B1-E6 在籍学級で理科の『学び合い』の授業を受ける外国人児童の変容に関する事例研究

○三崎 隆（信州大学）、小松 幹（松本市立鎌田小学校）

テーマ：数学的リテラシーという視座からの数学教育の再検討

日 時：8月25日（火）9:30～11:30 F会場（3階 S301 教室）

オーガナイザー：岩崎秀樹（広島大学大学院）

1B1-F1 高等学校学習指導要領と数学的リテラシー

○長尾篤志（国立教育政策研究所）

1B1-F2 算数・数学教育における社会的オープンエンドな問題の解決に見られる価値観

○馬場卓也（広島大学）

1B1-F3 問題解決から数学的活動へ：その架け橋としての数学的リテラシー

○阿部好貴（広島大学大学院教育学研究科）

1B1-F4 人間・社会にとっての算数・数学：何のための数学的リテラシー論か

○長崎栄三（静岡大学大学院教育学研究科）

テーマ：創造力の育成のための数学的活動とテクノロジーの利用

日 時：8月25日（火）9:30～11:30 H会場（3階 S303 教室）

オーガナイザー：垣花京子（筑波学院大学）、渡辺 信（東海大学）

1B1-H1 [企画趣旨説明] 創造力の育成のための数学的活動とテクノロジーの利用

○垣花京子（筑波学院大学）

1B1-H2 テクノロジーがもたらす授業改善

○末廣 聡（岡山県立備前緑陽高等学校）

1B1-H3 問題づくりとテクノロジーによる環境づくり

○福田千枝子（帝京大学）

1B1-H4 創造性育成の数学的活動におけるテクノロジーの利用と逆思考

○垣花京子（筑波学院大学）

1B1-H5 数学教育における創造的思考の可能性 学習指導要領における数学的活動

○渡辺 信（東海大学）

1B1-H6 The Human Brain: The Ultimate Tool for Mathematical Creativity

○Linda・Jensen・Sheffield（Northern Kentucky University）

テーマ：初等・中等教育における統計教育の改善に関する実践研究と今後の展開へ向けて

日 時：8月25日（火）9:30～11:30 I会場（3階 S308 室）

オーガナイザー：杉元新一郎（静岡大学）

指定討論者：永田潤一郎（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、国立教育政策研究所教育課程調査官・学力調査官）

1B1-I1 新領域「資料の活用」における数学的活動の指導について

○吉岡睦美（奈良教育大学附属中学校）

1B1-I2 小学校第1学年における児童の統計的な見方・考え方

○松元新一郎（静岡大学）

1B1-I3 児童は統計的リテラシーをいかに発揮するのか—小学校3年生の統計の授業からの知見—

○川上 貴（聖徳学園小学校）

1B1-I4 数学科における統計的リテラシーの育成を目指した指導

○中本信子（筑波大学附属中学校）

1B1-I5 新領域「資料の活用」におけるICTの効果的利用による授業の構築

○西仲則博（奈良教育大学附属中学校）

1B1-I6 標本調査に関する指導の考察

○細矢和博（東京大学教育学部附属中等教育学校）

1B1-I7 資料の活用での分布の見方

○藤井良宜（宮崎大学）

テーマ：これからの学校教育における説明・証明研究の展望Ⅱ

日時：8月25日（火）9:30～11:30 J会場（3階S309）

オーガナイザー：茅野公穂（信州大学）、宮崎樹夫（信州大学）

1B1-J1 カリキュラムにおける証明の居場所を捉える枠組み

○茅野公穂（信州大学）

1B1-J2 学校数学における証明活動を捉える視点に関する一考察 — 活動としての側面に焦点を当てて —

○辻山洋介（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

1B1-J3 具体物を用いて事柄が成り立つ理由を説明する過程—異なる表現の関係づけに着目して—

○小松孝太郎（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

1B1-J4 大規模調査結果を生かした証明指導の改善

○中川裕之（教育測定研究所）

1B1-J5 中学校における説明・証明の学習指導について～数学教育と国語教育との関連に着目して～

○水谷尚人（近畿大学）

1B1-J6 イギリスの中等教育段階における図形の論証・証明指導

○藤田太郎（英国プリマス大学）

===== 【2日目：午後】8月26日（水）15:00 - 17:00 =====

テーマ：マンガという教育メディア

日時：8月26日（水）15:00～17:00 A会場（4階S401教室）

オーガナイザー：竹中真希子（大分大学）

2B2-A1 マンガ教材の可能性

○吉川 厚（（株）教育測定研究所・東京工業大学）

2B2-A2 マンガを教材にする

○柳坂明彦（（株）アイ・ミー・マイン）

2B2-A3 多声的思考のための道具としてのマンガの可能性

○鈴木栄幸（茨城大学）、加藤 浩（放送大学、総合研究大学院大学）

2B2-A4 教師教育におけるマンガ教材

○大黒孝文（同志社女子大学・神戸大学大学院人間発達環境学研究科）、竹中真希子（大阪大学）、稲垣成哲（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）

テーマ：eラーニングからブレンディッドラーニングへ

日 時：8月26日（水）15:00～17:00 B会場（4階 S402 教室）

オーガナイザー：宮地 功（岡山理科大学）

2B2-B1 英語教育において個別テレビ会議交流による会話能力を育てる授業実践

○清水義彦（富山商船高等専門学校）、宮地 功（岡山理科大学）

2B2-B2 プレゼンテーションを取り入れた母国語による国際テレビ会議交流による学生の卒業研究の促進

宮地 功（岡山理科大学）、○李 在栄（東北師範大学）、王 以寧（東北師範大学）

2B2-B3 人工知能のブレンド型授業において学習支援システムを構想させる効果

○宮地 功（岡山理科大学）

2B2-B4 講義・演習型授業でのブレンド形態による教育効果の分析

○安達一寿（十文字学園女子大学）、中尾茂子（十文字学園女子大学）、北原俊一（十文字学園女子大学）

2B2-B5 介護福祉施設におけるブレンド型研修の将来構想

○富田隆一郎（岡山理科大学・両備ホールディングス（株））、宮地 功（岡山理科大学）

テーマ：理科ねっとわーくを用いた理科授業の学習効果について

日 時：8月26日（水）15:00～17:00 C会場（4階 S403 教室）

オーガナイザー：川村康文（東京理科大学）

2B2-C1 理科ねっとわーくを授業に導入した場合の学習効果について

○川村康文（東京理科大学）

2B2-C2 高校地学「プレートテクトニクス」分野における「理科ねっとわーく」を利用した学習の効果についての検証

○村山 保（京都府立桃山高等学校）、川村康文（東京理科大学）、出口英二（東京理科大学）、中村保裕（東京理科大学）

2B2-C3 高校物理「モーターと発電機」における「理科ねっとわーくを利用した学習」の学習効果の検証

○大坂厚志（北海道札幌平岡高等学校）、川村康文（東京理科大学）

2B2-C4 高校化学分野「混合物の分離」における「赤ワインの蒸留実験」と『理科ねっとわーくを利用した学習』の学習効果の検証

○一木 博（京都府立南丹高等学校）、川村康文（東京理科大学）、中村保裕（東京理科大学大学院）

2B2-C5 高等学校「物理Ⅰ（力学分野）」における理科ねっとわーくの活用事例とその学習効果の測定

○林 壮一（立教新座中学校・高等学校）、島野誠大（立教新座中学校・高等学校・立教大学）、

中村保裕（東京理科大学）、川村康文（東京理科大学）

2B2-C6 高校物理「電磁気」分野における理科ねっとわーくの特徴

○島野誠大（立教大学・立教新座中学校・高等学校）、林 壮一（立教新座中学校・高等学校）、
出口英二（東京理科大学）、川村康文（東京理科大学）

テーマ：これからの統計教育の方向性(3)：統計的な探究プロセスをいかに授業の中で
実現するか

日 時：8月26日(水) 15:00～17:00 D会場（4階 S404 教室）

オーガナイザー：青山和裕（愛知教育大学）

2B2-D1 [企画趣旨説明] これからの統計教育の方向性(3)：統計的な探究プロセスをいかに授業の中で実現するか

○青山和裕（愛知教育大学）

2B2-D2 GAISE レポートに基づく中学校統計教育における評価の枠組み

○小口祐一（盛岡大学）

2B2-D3 統計的な問題解決の学習指導に関する一考察

○本田千春（東京学芸大学附属国際中等教育学校）、西村圭一（国立教育政策研究所）

2B2-D4 統計的な探究プロセスをいかに授業の中で実現するかー相関と回帰の授業実践を通してー

○中本信子（筑波大学附属中学校）

2B2-D5 情報を処理し活用する力を育てる理科学習

○福岡達昭（名古屋市立桜小学校）

テーマ：新学習指導要領における数学的モデリングの位置づけ

日 時：8月26日(水) 15:00～17:00 E会場（4階 S405 教室）

オーガナイザー：松寄昭雄（鳴門教育大学大学院学校教育研究科）

2B2-E1 [企画趣旨説明] 数学的モデリングに関する自主企画課題研究のこれまでとこれから

○松寄昭雄（鳴門教育大学大学院学校教育研究科）

2B2-E2 新学習指導要領における数学的モデル化の位置づけに関する一考察

○岡留優介（広島大学附属中・高等学校）

2B2-E3 算数と社会をつなげる力の育成をめざす学習指導に関する研究

○島田 功（成城学園初等学校）

2B2-E4 数学的モデル化に関わる力の育成をめざすテキストの記述に関する一考察

○高橋広明（東京学芸大学附属国際中等教育学校）、○小林廉（東京学芸大学附属国際中等教育学校）、西村圭一（国立教育政策研究所）

2B2-E5 数学的モデリングと数学的知識の構成ーモデル主義に基づく数学教育の構想ー

○池田敏和（横浜国立大学）

■ 一般研究発表

===== 【1日目：午前】 8月25日（火）9:30 - 11:30 =====

セッション：教育実践・科学授業開発（1）

日 時：8月25日（火）9:30～11:30 A会場（4階S401教室）

座 長：佐藤典子（お茶の水女子大学）、坪井京子（東京大学）

1G1-A1 簡易調理実習を活用した成人向け講座「北区環境大学」～豆乳作りから食料自給率を考える～

○佐藤典子（お茶の水女子大学）、宮本康司（お茶の水女子大学）、長田聖次（東京都北区環境課）、千葉和義（お茶の水女子大学）

1G1-A2 東京都北区における中学生を対象としたサイエンスキャンプの実践報告

○仲矢史雄（お茶の水女子大学）、上田 祐（お茶の水女子大学）、森川 聡（お茶の水女子大学）、和田重雄（お茶の水女子大学）、佐藤典子（お茶の水女子大学）、野口政止（お茶の水女子大学）、畔柳信之（東京都北区教育委員会）、千葉和義（お茶の水女子大学）

1G1-A3 サイエンスコミュニケーションを取り入れた暗視野顕微鏡と新学習指導要領への適用

○井上陽子（神奈川県立西湘高等学校）

1G1-A4 コンセンサス会議の教育利用からSTS教育を再考する

○内田 隆（埼玉県立浦和第一女子高等学校）、福井智紀（麻布大学）

1G1-A5 研究者による貸出教材「金属・材料を調べてみよう」の開発

○坪井京子（東京大学）、赤川史帆（東京大学）、本間栄男（東京大学）、大島まり（東京大学・東京大学大学院情報学環）、光田好孝（東京大学）

セッション：教育実践・科学授業開発（2）

日 時：8月25日（火）9:30～11:30 B会場（4階S402教室）

座 長：高橋庸哉（北海道教育大学）、渡邊真紀（立教大学）

1G1-B1 『雪に負けない世界ーの新千歳空港』ページの開発～雪の学習サポートページ「北海道雪たんけん館」の一環として～

土門啓二（ニセコ町立ニセコ小学校）、坂田一則（札幌市立八軒小学校）、○高橋庸哉（北海道教育大学）、小笠原啓之（札幌市立手稲山小小学校）、太田 真（ピコグラフ）、北海道雪プロジェクト

1G1-B2 地域素材「札幌市の除雪」に関するWebコンテンツの開発と教室への普及を図る方策～Webサイト「雪たんけん館」の一環として～

○佐野浩志（札幌市立緑丘小学校）、高橋庸哉（北海道教育大学）、太田 真（ピコグラフ）、北海道雪プロジェクト

1G1-B3 指標生物としてのサホコカゲロウを検討する

○本庄 真（明日香村立明日香小学校）

1G1-B4 ニワトリを解剖しながら進める「体のつくりと運動」の教育実践

○和田重雄（開成中学校・開成高等学校）、刑部南月子（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）

1G1-B5 研究者と学校教員によるアストロバイオロジーのカリキュラム作成

○渡邊（村山）真紀（立教大学）、本間典子（東京大学）、成田憲保（国立天文台）、

藤森浩彰（東京医科歯科大学）、志知大輔（東京医科歯科大学）、小寺千絵（東京大学）、
笠原 慧（宇宙航空研究開発機構）、平沢達矢（東京大学）、高梨直紘（国立天文台）、
勝由美子（お茶の水女子大学）、村山美知子（船橋市立高郷小学校）

===== 【1日目：午後】 8月25日（火）13:00 - 16:00 =====

セッション：教育実践・科学授業開発（3）

日 時：8月25日（火）13:00～16:00 A会場（4階S401教室）

座 長：山下修一（千葉大学）、田中賢二（岡山大学）

1G2-A1 「音声発音（再生）システム」を活用した学び合い

○尾池佳子（八王子市立由木中央小学校）、小林智之（八王子市立由木中央小学校）、
山崎久美子（八王子市立由木中央小学校）、内野裕司（八王子市立由木中央小学校）、
藤谷貴博（八王子市立由木中央小学校）、飯田 薫（八王子市立由木中央小学校）、生田 茂（大妻女子大学）

1G2-A2 学校における ICT の活用に関する国際比較調査結果

○坂谷内勝（国立教育政策研究所）

1G2-A3 理科授業におけるメタ言語使用の意識化を図る手法の開発Ⅱ－話し合いのモニタリングの手法を用いて－

○中城 満（高知大学教育学部附属小学校）、楠瀬弘哲（高知市立鴨田小学校）、北村真一（南国市立長岡小学校）、小島ふみ子（高知大学教育学部附属小学校）、川崎 謙（高知大学）

1G2-A4 新学習指導要領に対応した小・中学校理科全単元をつなぐコア知識関連図の開発

○山下修一（千葉大学）、小野寺千恵（杉並区立和泉小学校）、鈴木康代（南房総市立丸山中学校）

1G2-A5 熱概念の変容を促す授業構成の研究～概念変容に対する多角的な解釈の枠組みを手がかりに～

○杉田俊也（群馬県立下仁田高等学校）、大高 泉（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

1G2-A6 科学的思考を指導するための授業デザインー探究活動中の逆推論の検討ー

○坂本美紀（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）、山口悦司（宮崎大学）、橘 早苗（三木市立緑が丘小学校）、村山 功（静岡大学）、稲垣成哲（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）

1G2-A7 ドイツ・ブランデンブルク邦、ベルリン邦ーにおける初等科学教育

○田中賢二（岡山大学）

セッション：教育実践・科学授業開発（4）

日 時：8月25日（火）13:00～16:00 B会場（4階S402教室）

座 長：後藤頭一（国立教育政策研究所）、藤井健司（茗溪学園中学校高等学校）

1G2-B1 様々な光を活用した観察実験の開発ー茨城大学における理数系教員指導力向上研修ー

○山本勝博（茨城大学）

1G2-B2 分子やイオンにおける原子の電気陰性度

○井上正之（東京理科大学）

1G2-B3 スモールスケール化を可能にする自作実験ツールの製作とそれを利用した高等学校有機化学実験パッケージの開発と実践

○後藤顕一（国立教育政策研究所）

1G2-B4 水分子で遊ぼう―高校生を対象とした科学遊びから探究をめざす教材

○那須悦代（和歌山県立耐久高等学校）、アグベコ・ジュリウス・コフィ（アクラ教育大学）、アブカリ・モーゼス・アブドゥライ（岡山大学大学院教育学研究科）、喜多雅一（岡山大学大学院教育学研究科）

1G2-B5 大学院生のSD意識向上を図る授業プログラムの試行的開発

○三宅志穂（神戸女学院大学）、竹中真希子（大分大学）

1G2-B6 滋賀の水産教育とカリキュラムの構築

○杉浦省三（滋賀県立大学）

1G2-B7 科学技術学習を取り入れた森林体験プログラム「森小屋づくり体験活動」の実践

○加藤尚徳（上越教育大学）、東原貴志（上越教育大学）、松風嘉男（上越教育大学附属中学校）、保坂 修（上越教育大学附属中学校）

1G2-B8 エネルギー環境教育に関する授業の提案―NEEDをベースとして―

○藤井健司（茗溪学園中学校高等学校）、○齋藤利行（日立市立滑川中学校）、小田島寛（東京都立葛西南高等学校）、吉田 淳（つくば市立豊里中学校）、板橋夏樹（つくば市立谷田部中学校）、山中和典（常総市教育委員会）、田崎俊介（筑波大学大学院教育研究科）、三枝 拓（筑波大学大学院教育研究科）、金澤仁美（筑波大学大学院教育研究科）、山川泰子（筑波大学大学院教育研究科）

セッション：科学教育人材養成（1）

日 時：8月25日（火）13:00～16:00 D会場（4階S404教室）

座 長：長神風二（東北大学）、山科直子（東京大学）

1G2-D1 理科好きな福井の子供たちを育てる試み～10年間の歩みを通して～

○宇野秀夫（福井市立社中学校）、伊佐公男（福井大学）、加藤正弘（福井県教育研究所）、小鍛冶優（永平寺町上志比中学校）、深江千代一（原子力安全システム研究所）

1G2-D2 調べ学習が科学的リテラシーの育成に及ぼす効果

○清水 誠（埼玉大学）、小森栄治（埼玉大学）、田中修平（流山市立北部中学校）、黒川 昇（蓮田市立黒浜南小学校）

1G2-D3 夏休みの宿題としての自由研究の指導

○井上徳也（日本教育大学院大学）、小西伴尚（梅村学園三重中学校）、山田陽一郎（梅村学園三重中学校）、比企延之（梅村学園三重中学校）

1G2-D4 東北大学サイエンスカフェの来場者―50回を超える実施から

○長神風二（東北大学）、吉澤 誠（東北大学）

1G2-D5 伝え手になることで得られる学び―ハンズ・オン・サイエンスカフェという取り組み―

○水町衣里（京都大学大学院情報学研究科）、塩瀬隆之（京都大学総合博物館）、山田 歩（（株）化学同人）

1G2-D6 動物園はサイエンスコミュニケーションの場となるか？―「Gen's CAFE」の試み

○奥山英登（旭川市旭山動物園）、坂東 元（旭川市旭山動物園）

1G2-D7 アメリカの大学における科学技術コミュニケーター養成カリキュラムの分析

○中村 理（早稲田大学）

1G2-D8 科学技術インタープリター教育を通じた課題認識の変化～食の安全を題材にして～

○山科直子（東京大学）、船戸修一（東京大学）、草深美奈子（東京大学）

セッション：科学教育人材養成（2）

日時：8月25日（火）13:00～16:00 E会場（4階S405教室）

座長：三崎 隆（信州大学）、溝邊和成（兵庫教育大学）

1G2-E1 教科専門教員と教科教育教員とのチーム指導体制での連携による小学校現職教員に対する継続的な支援に関する事例研究

○三崎 隆（信州大学）、田中新一（栄村立栄中学校）、天谷健一（信州大学）

1G2-E2 科学好きな子どもを育成する能力を高める教師教育プログラムの体系化ー地域の教材化を目指した長期にわたる段階的な教師教育プログラムの開発ー

○五島政一（国立教育政策研究所）、熊野善介（静岡大学）、坂田尚子（常葉学園大学）、岡本弥彦（麻布大学）、アースシステム教育研究会

1G2-E3 理科教育実習生による教科内容とコミュニケーションに関するリフレクションーティーチング・ポートフォリオの分析からー

○谷塚光典（信州大学）、三崎 隆（信州大学）、東原義訓（信州大学）

1G2-E4 教員養成課程における理科教育授業の改革ー模擬授業を中心とした小学校教材研究の取り組みー

○石井恭子（福井大学）、伊佐公男（福井大学）、加藤正弘（福井県教育研究所）、小鍛冶優（上志比中学校）

1G2-E5 小学校教員養成課程の実態調査～博物館における小学校教員の理科指導力の向上を目指して

○亀井 修（国立科学博物館）、高橋みどり（国立科学博物館）、永山俊介（国立科学博物館）

1G2-E6 理科を専門としない小学校教員を目指す学生の理科学習指導に関する資質の実態

○寺田光宏（岐阜聖徳学園大学）

1G2-E7 女子大における小学校教員希望学生を対象とした理科授業の工夫

○溝邊和成（兵庫教育大学）

セッション：IT・メディア利用の科学教育システム

日時：8月25日（火）13:00～16:00 F会場（3階S301教室）

座長：森田裕介（早稲田大学）、大西俊弘（龍谷大学）

1G2-F1 児童・生徒による動画作成を支援する理科教育用ソフトウェア “Galop”

○中山 迅（宮崎大学大学院）、林 敏浩（香川大学）、米村 彰（宮崎大学大学院）、藤澤修平（香川大学大学院）、上富秀一（宮崎県立高鍋高等学校）

1G2-F2 環境学習における実世界と仮想世界との関連付けを支援するデジタル植生遷移ゲームの開発と評価

○出口明子（宇都宮大学）、楠 房子（多摩美術大学）、武田義明（神戸大学大学院人間発達環境学研究所）、山口悦司（宮崎大学）、稲垣成哲（神戸大学大学院人間発達環境学研究所）、杉本雅則（東京大学大学院工学系研究科）

1G2-F3 GPS とデータロガーを用いた局地気象観測システム（Ⅱ）

○名越利幸（岩手大学）、中田 隆（MRI）

1G2-F4 VR教材の効果的な活用場面に関する調査

○瀬戸崎典夫（早稲田大学）、森田裕介（早稲田大学）、竹田 仰（九州大学大学院芸術工学研究院）

1G2-F5 e ラーニングを用いた文系学生向けの数学授業

○千葉康生（東京工科大学）、吉田宏二（茨城大学）

1G2-F6 中学校数学におけるフローチャート証明の学習支援システムの開発—誤りの特徴に応じた修正促進に着目して—

○宮崎樹夫（信州大学）、村上陽一（サンファースト）、湯本武司（松本市立開成中学校）、馬場直樹（長野市立豊野中学校）

1G2-F7 等差数列のプログラム例を調べられるコンテンツの開発 c プログラミング教育を支援する学習環境

○二見尚之（湘南工科大学）

1G2-F8 媒介変数で表される曲線の学習へのテクノロジーの利用 — What-If-Not 方略を活用して —

○大西俊弘（龍谷大学）

セッション：教材開発（1）

日 時：8月25日（火）13:00～16:00 H会場（3階 S303 教室）

座 長：片岡佐知子（奈良教育大学）、矢原弘樹（筑波大学）

1G2-H1 素粒子実験 Belle のデータ公開プロジェクト「B-Lab」の取り組み

○片岡佐知子（奈良教育大学）、関谷絢子（奈良女子大学大学院人間文化研究科）、西田昌平（高エネルギー加速器研究機構）、野崎忠男（高エネルギー加速器研究機構）、樋口岳雄（高エネルギー加速器研究機構）

1G2-H2 「手回し発電機」の科学実験への利用と教科書に登場するまで：シンプルな体験型実験器具の普及に見る諸相と要因——中国での製造と輸入の実情，そしてタイ国 IPST における開発と試験的利用への展開も視野に——

大隅紀和（OES 研究所）、前島孝司（OES 研究所）、○中野佳昭（大阪府立千里高等学校）、森 基（泉佐野市立上之郷小学校）、Phongchai・Sriphan（タイ国教育省・科学技術教育振興研究所 IPST）

1G2-H3 理科教育のための O2/CO2 計測—(1)—リングの呼吸実験—

○高橋三男（東京工業高等専門学校）、山本勝博（茨城大学）、堀 哲夫（山梨大学）、寺谷敏介（東京学芸大学）、松原静郎（桐蔭横浜大学）

1G2-H4 LED を活用した科学教育の充実—地域の教育資源との連携を通して—

○谷中英昭（阿南市立阿南中学校）、釜野 勝（阿南工業高等専門学校）、板東孝明（武蔵野美術大学）

1G2-H5 小学校理科「魚の解剖」に関する教材の教育的効果の分析—科学的概念形成と生命観育成をめざして—

○岩間淳子（川崎市立看護短期大学）、鳩貝太郎（国立教育政策研究所）、松原静郎（桐蔭横浜大学）、下條隆嗣（東京学芸大学）

1G2-H6 地域教材から普遍性を導くための試み

○山崎良雄（千葉大学）、高橋典嗣（千葉大学大学院人文社会科学研究所）

1G2-H7 記数法の学習のための n 進表示温度計の開発

○高藤清美（筑波学院大学）、垣花京子（筑波学院大学）

1G2-H8 敷き詰めソフトウェアによる数学的活動の可能性に関する一考察

○矢原弘樹（筑波大学）、磯田正美（筑波大学）

セッション：科学教育各論

日時：8月25日（火）13:00～16:00 I会場（3階S308教室）

座長：小原 豊（立命館大学）、飯島康之（愛知教育大学）

1G2-I1 中学生の数学と理科に関する意識調査

○小原美枝（神奈川県立百合丘高校）、安藤秀俊（国士舘大学）

1G2-I2 小学校入門期における子どもの数的活動—インフォーマルな知識を視点とした分類の試み—

○石井康博（早稲田大学大学院人間科学研究科）

1G2-I3 ケースメソッドによる算数の教科内容知識の拡大に関する実践

○小原 豊（立命館大学）

1G2-I4 action proof を活用して新たな事柄を生成する活動の促進

○小松孝太郎（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

1G2-I5 数学教育における概念変容研究の科学哲学的基礎の再考：ラカトシュ理論の援用可能性について

○真野祐輔（広島大学大学院教育学研究科）

1G2-I6 作図ツールを用いた数学的探究における意思決定と「対応表」の役割

○飯島康之（愛知教育大学）

1G2-I7 分母に平方根を含む数と有理数との類似と相違に着目した学習活動

○両角達男（上越教育大学）、荻原文弘（佐久長聖中学校・高等学校）

1G2-I8 有理数から平方根 に接近する学習活動

○荻原文弘（佐久長聖中学・高等学校）、両角達男（上越教育大学）

セッション：科学教育連携システム

日時：8月25日（火）13:00～16:00 J会場（3階S309教室）

座長：小川義和（国立科学博物館）、若月 聡（千葉大学）

1G2-J1 「青少年のための科学の祭典」における出展者の意識

○海野桃子（福岡教育大学大学院）、安藤秀俊（国士舘大学）、宮里政吾（福岡教育大学）、森藤義孝（福岡教育大学）

1G2-J2 「デリバリー実験教室」方式がもたらす効果の男女比較

○堀田のぞみ（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・お茶の水女子大学）、宮本康司（お茶の水女子大学）、畔柳信之（東京都北区教育委員会）、千葉和義（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・お茶の水女子大学）

1G2-J3 「ふくしまサイエンスぷらっとフォーム」における大学の果たす役割について（1）

○岡田 努（福島大学）

1G2-J4 学校と博物館の連携促進のための科学的体験学習プログラムの開発と体系化

○小川義和（国立科学博物館）、岩崎誠司（国立科学博物館）、渡辺千秋（国立科学博物館）、富村智子（国立科学博物館）、井上 康（国立科学博物館）

1G2-J5 北区環境大学カリキュラムが成人の科学リテラシー向上にもたらす効果

○宮本康司（お茶の水女子大学）、池田まさみ（お茶の水女子大学）、長田聖次（東京都北

区環境課)、千葉和義(お茶の水女子大学)

1G2-J6 太陽観測衛星ひのでのデータを活用した教育・アウトリーチ活動

○矢治健太郎(立教大学)、時政典孝(兵庫県立西はりま天文台公園)、下条圭美(国立天文台)、殿岡英顕(国立天文台)

1G2-J7 地域社会における市民科学活動支援システムの構築

○伊藤真之(神戸大学大学院人間発達環境学研究所)、蛭名邦禎(神戸大学大学院人間発達環境学研究所)、武田義明(神戸大学大学院人間発達環境学研究所)、田中成典(神戸大学大学院工学研究科)、橋口典子(神戸大学大学院人間発達環境学研究所)、一橋和義(東京工業大学)、堂園いくみ(神戸大学大学院人間発達環境学研究所)、横山恭子(神戸大学大学院人間発達環境学研究所)、久保田宏(神戸大学大学院人間発達環境学研究所)

1G2-J8 「次世代の科学力」を育てる「未来の科学者養成講座」の取り組み

○若月 聡(千葉大学)、千葉大学「未来の科学者養成講座」担当一同

===== 【2日目：午後】8月26日(水)12:45 - 14:45 =====

セッション：科学教育の現代的課題

日時：8月26日(水)12:45～14:45 A会場(4階S401教室)

座長：西之園晴夫(NPO法人学習開発研究所)、渡辺 信(東海大学)

2G3-A1 公式外高等教育(大学外)と自律学習によるセイフティーネット

○西之園晴夫(NPO法人学習開発研究所)、望月紫帆(NPO法人学習開発研究所)

2G3-A2 オランダの理科教育振興施策

○木庭治夫((独)科学技術振興機構)、内丸幸喜((独)科学技術振興機構)、小倉 康(国立教育政策研究所)

2G3-A3 理科自然体験学習を実施している学校と実施していない学校との比較研究

○宮下 治(関東学院大学)

2G3-A4 高等学校学習指導要領に示された課題研究

○野々山清(名城大学)

2G3-A5 テクノロジーは人を賢くするか?—肯定的な数学教育を求めて—

○渡辺 信(東海大学)

セッション：科学教育課程

日時：8月26日(水)12:45～14:45 B会場(4階S402教室)

座長：渡邊重義(愛媛大学)、小倉 康(国立教育政策研究所)

2G3-B1 理科カリキュラムの連続性に注目した授業実践研究3 —学習者の表現活動と理科カリキュラム—

○渡邊重義(愛媛大学)

2G3-B2 日本の中等科学教育カリキュラムにおける科学原理とテクノロジー教材の関連—戦後発行の高等学校化学教科書にみられた石油化学工業の教材分析を踏まえて—

○郡司賀透(郡山女子大学短期大学部)

2G3-B3 小学校理科単元名「動くおもちゃをつくろう」における「スタンダード準拠評価」の効果

○磯部征尊(新潟大学教育学部附属新潟小学校)、加藤 聡(燕市立燕東小学校)、伊藤大輔(金

沢工業大学)、山崎貞登(上越教育大学大学院)

2G3-B4 小学校理科における粒子概念の導入—なぜ水蒸気は目に見えないのか?—

○村上 祐(岩手大学)、菊地洋一(岩手大学)、尾崎尚子(盛岡市立緑が丘小学校)、
武井隆明(岩手大学)、藤崎聡美(岩手大学)

2G3-B5 カナダの科学教育による科学的リテラシーの育成

○小倉 康(国立教育政策研究所)

セッション：科学教育論

日 時：8月26日(水) 12:45～14:45 C会場(4階S403教室)

座 長：吉岡亮衛(国立教育政策研究所)、山田俊弘(茨城大学)

2G3-C1 成人の科学知識と科学的態度

○吉岡亮衛(国立教育政策研究所)、藤田剛志(千葉大学)、寺田光宏(岐阜聖徳学園大学)、
カイザー・シュテファン(筑波大学)

2G3-C2 科学の学習における具体性とは何か

○吉岡有文(東京都立練馬高等学校)

2G3-C3 地球物理学制度化への挑戦—志田順と京都帝大地球物理学科 1909年-1936年—

○山田俊弘(茨城大学)

2G3-C4 神戸伊三郎のプロフェッショナルな理科教師像

○館江栞郎(東京工業大学大学院社会理工学研究所)

2G3-C5 AP生物の試験内容

○長谷川仁子((独)科学技術振興機構)、小倉 康(国立教育政策研究所)

セッション：科学的学力・能力

日 時：8月26日(水) 12:45～14:45 D会場(4階S404教室)

座 長：松原道男(金沢大学)、猿田祐嗣(国立教育政策研究所)

2G3-D1 理科における子どもの記述内容の分析(2)—TIMSS2007の物理・化学領域における推
論問題を例にして—

○松原道男(金沢大学)

2G3-D2 新学習指導要領と「トレードオフ」に基づく意思決定能力育成に関する一考察

○荻野正彦(さいたま市立西原中学校)、片平克弘(筑波大学大学院人間総合研究科)

2G3-D3 TIMSS 2007における日本の生徒の数学水準と数学に対する態度の関係

○御園真史(東京大学大学院情報学環)

2G3-D4 TIMSS1999における数学問題「クラブにいる男女の数」の解法の表現

○笠井健一(国立教育政策研究所)、瀬沼花子(玉川大学)

2G3-D5 TIMSS理科の論述形式問題に対する解答に見る日本の児童・生徒の特徴(12)—正答率
や無答率の分析による論述形式問題への取り組みの推移—

○猿田祐嗣(国立教育政策研究所)

セッション：科学教育人材養成（3）

日 時：8月26日（水）12:45～14:45 E会場（4階 S405 教室）

座 長：谷塚光典（信州大学）、佐藤明子（（独）科学技術振興機構）

2G3-E1 高等学校理科教員実態調査—理科教育に対する取り組みと教員の意識—

○進藤明彦（（独）科学技術振興機構）、長谷川仁子（（独）科学技術振興機構）、渡辺怜子（（独）科学技術振興機構）、佐藤明子（（独）科学技術振興機構）、木庭治夫（（独）科学技術振興機構）、町田義昭（（独）科学技術振興機構）、松本 誠（（独）科学技術振興機構）、花上和己（（独）科学技術振興機構）、山家真二（（独）科学技術振興機構）、小倉 康（（独）科学技術振興機構）・国立教育政策研究所

2G3-E2 高校科学から実験が消える日

○泉 俊輔（広島大学）、藤井雅史（広島大学）、中山広文（倉敷天城中学校）、進藤明彦（（独）科学技術振興機構）

2G3-E3 小・中学校理科教育実態調査報告Ⅰ—理科に対する教員の意識等について—

○花上和己（（独）科学技術振興機構）、松本 誠（（独）科学技術振興機構）、下条 徹（埼玉県立総合教育センター）、田中 基（葉山町教育委員会）、木庭治夫（（独）科学技術振興機構）、進藤明彦（（独）科学技術振興機構）、長谷川仁子（（独）科学技術振興機構）、佐藤明子（（独）科学技術振興機構）、渡辺怜子（（独）科学技術振興機構）、小倉 康（国立教育政策研究所）

2G3-E4 小・中学校理科教育実態調査報告Ⅱ—教員研修及び観察・実験に必要な費用について—

○松本 誠（（独）科学技術振興機構）、花上和己（（独）科学技術振興機構）、下条 徹（埼玉県立総合教育センター）、田中 基（葉山町教育委員会）、木庭治夫（（独）科学技術振興機構）、進藤明彦（（独）科学技術振興機構）、長谷川仁子（（独）科学技術振興機構）、佐藤明子（（独）科学技術振興機構）、渡辺怜子（（独）科学技術振興機構）、小倉 康（国立教育政策研究所）

2G3-E5 NSTA 理科教師養成基準とプログラムへの応用

○佐藤明子（（独）科学技術振興機構）、小倉 康（（独）科学技術振興機構）・国立教育政策研究所

セッション：教育方法と評価

日 時：8月26日（水）12:45～14:45 F会場（3階 S301 教室）

座 長：坂田尚子（常葉学園大学）、高橋みどり（国立科学博物館）

2G3-F1 山間部の小学校における環境学習の実践—「土と暮らし」をテーマとした総合的な学習から—

○坂田尚子（常葉学園大学）、池田庭子（環境学習コーディネーター）、酒井靖子（環境学習指導員）、天野恭子（環境学習指導員）、塩見 寛（静岡県）

2G3-F2 「中高生・アフタースクールプログラム」展示製作を通じた青少年の科学リテラシー涵養

○原田光一郎（国立科学博物館）、小川義和（国立科学博物館）

2G3-F3 理科学習の評価と授業改善についての実践的研究—科学のプロセススキルを用いて—

○池田仁人（相模女子大学）、高垣マユミ（鎌倉女子大学）、坂田尚子（常葉学園大学）

2G3-F4 「青少年のための科学の祭典」来場者に見られる科学技術に対する意識、理科を学ぶ意義と科学的リテラシー自信度との関係について

○田代英俊（（財）日本科学技術振興財団）、中村 隆（（財）日本科学技術振興財団）、桃井直美（（財）日本科学技術振興財団）、稲垣裕介（（財）日本科学技術振興財団）、小山 治（東京大学）

2G3-F5 科学系博物館における科学リテラシー涵養を目指した学習プログラムの可能性と評価の試み（2）～評価ツール作成までの方法論構築を目指して

○高橋みどり（国立科学博物館）、亀井 修（国立科学博物館）、石井久隆（千葉県立現代産業科学館）、小椿清隆（我孫子市立第一小学校）、小川義和（国立科学博物館）

セッション：教材開発（2）

日 時：8月26日（水）12:45～14:45 H会場（3階S303教室）

座 長：加藤 浩（放送大学）、福井智紀（麻布大学）

2G3-H1 博物館認知オリエンテーション教材を利用したアウトリーチ活動

○奥本素子（日本学術振興会特別研究委員・放送大学）、山田政寛（金沢大学）、加藤 浩（放送大学）

2G3-H2 米国の科学博物館で開発された海洋科学コミュニケーション実践講座の概要—学習者の学び方について理論的に理解し、効果的な教授法を習得する—

○藤田喜久（特定非営利活動法人 海の自然史研究所）、今宮則子（特定非営利活動法人 海の自然史研究所）、平井和也（特定非営利活動法人 海の自然史研究所）、都築章子（特定非営利活動法人 海の自然史研究所）

2G3-H3 音声や音を活用したカリキュラム開発と教材の事例提案

○福島健介（（社）学術・文化・産業ネットワーク多摩）、一文字由佳（大妻女子大学）、小澤晶子（大妻女子大学）、篠原ゆう（大妻女子大学）、生田 茂（大妻女子大学）

2G3-H4 ファストプランツの小学校・中学校でのマルチ教材活用

○前田紗綾香（福岡教育大学大学院）、西野秀昭（福岡教育大学）

2G3-H5 科学に対する多面的理解を目指した漫画教材開発—論文捏造事件を素材とした現代の科学者像の教材化—

○福井智紀（麻布大学）、佐久間岳（千葉市立椿森中学校）

セッション：国際比較・国際貢献

日 時：8月26日（水）12:45～14:45 I会場（3階S308教室）

座 長：藤岡達也（上越教育大学大学院学校教育研究科）、磯崎哲夫（広島大学大学院教育学研究科）

2G3-I1 教育改革時における東アジアの理科教育の共通性と差異について（I）—STS教育と総合学習の観点からみた日本と台湾の比較を中心に—

○藤岡達也（上越教育大学大学院学校教育研究科）、林 明煌（台湾国立嘉義大学）

2G3-I2 日本と中国における理科教育の比較研究

○盖 迪（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）、滝澤公子（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）、室伏きみ子（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）

2G3-13 後期中等教育段階の化学教育に関するイギリスと日本の生徒の意識

○内海志典（広島大学大学院教育学研究科）、磯崎哲夫（広島大学大学院教育学研究科）

2G3-14 マレーシア政府、東方政策による高専留学プログラムでの25年間の理数教科の教育

○伊藤光雅（マラ工科大学）

セッション：教材開発（3）・国際

日 時：8月26日（水）12:45～14:45 J会場（3階 S309 教室）

座 長：吉田 淳（愛知教育大学）

2G3-J1 Importance of Statistical Reasoning about Variability as Research Trend

○ゴンザレス・オルランド・ラファエル（筑波大学大学院教育研究科）

2G3-J2 Disinfection of Water by Chlorination Using Rice Paper

○Moses Abdullai ABUKARI (Graduate School of Education, Okayama University)、
Masakazu KITA (Graduate School of Education, Okayama University)

2G3-J3 Cobalt(II) chloride paper and iron(III) chloride solution as inorganic indicators

○KEO Vanthooun (Graduate School of Education, Okayama University)、KITA Masakazu (Graduate School of Education, Okayama University)

2G3-J4 L-乳酸を用いた光学活性に関する高等学校化学の教材開発

○藤田正紀（兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科）、
モーゼス・アブドライ・アブガリ（岡山大学大学院教育学研究科）、喜多雅一（岡山大学大学院教育学研究科）

■ インタラクティブセッション

日 時：8月26日（水）12:45～14:45 G会場（3階 S302 教室）

* 2P1-G1～G6は前半（12:45～13:45）に、2P1-G7～G12は後半（13:45～14:45）に
発表をおこなう。

座 長：久保田善彦（上越教育大学）

2P1-G1 実践事例集に見る Kneading Board 活用の類型

○久保田善彦（上越教育大学）、舟生日出男（広島大学）、鈴木栄幸（茨城大学）、加藤 浩（放送大学）

2P1-G2 Kneading Board の実践的運用を目指したサーバ用 KNOPPIX の改善

○舟生日出男（広島大学）鈴木栄幸（茨城大学）、久保田善彦（上越教育大学）、加藤 浩（放送大学）

2P1-G3 科学系博物館における科学リテラシー涵養のための学習支援活動の取り組み—国立科学博物館幼児向け学習プログラムを事例に—

○田邊玲奈（国立科学博物館）、若林文高（国立科学博物館）、岩崎誠司（国立科学博物館）、高橋みどり（国立科学博物館）、小川義和（国立科学博物館）、田代英俊（科学技術館）、野田 学（名古屋市科学館）

2P1-G4 エネルギー概念の理解を深める授業の提案

○原口博之（静岡県立浜松大平台高等学校）

2P1-G5 ロボット教育の実践

○森本弘一（奈良教育大学）、田中琢也（奈良教育大学）、麴谷慶太（奈良教育大学）

2P1-G6 モル概念獲得のための実験プログラムの開発—高等学校を中心に—

○生尾 光（東京学芸大学）、藤井洋輔（東京学芸大学）、吉永裕介（東京学芸大学）、小川治雄（東京学芸大学）

2P1-G7 多糖類ゲルを利用した化学実験教材の開発

○高藤清美（筑波学院大学）、根本純一（（株）バイオフィトケモニクス研究所）、上野寛仁（（株）バイオフィトケモニクス研究所）、金子正夫（（株）バイオフィトケモニクス研究所）

2P1-G8 ミクストリアリティの教育応用とその普及

○近藤智嗣（放送大学）

2P1-G9 実空間と仮想空間が連動するインタラクティブな教材の開発

○森田裕介（早稲田大学）、瀬戸崎典夫（早稲田大学）、岩崎 勤（（株）ケイ・ジー・ティー）、竹田 仰（九州大学）

2P1-G10 校内 LAN 対応リアルタイム気象データモニタリングシステムの開発

○高橋庸哉（北海道教育大学）、土田幹憲（札幌市立東米里小学校）、割石隆浩（札幌市立新琴似みどり小学校）、荒川 巖（札幌市立八軒北小学校）、成本典之（（株）NSC）、野崎正昭（（株）NSC）

2P1-G11 コンセプトマップ作成とリフレクションを支援するソフトウェア「あんどろ君」

○出口明子（宇都宮大学）、舟生日出男（広島大学大学院工学研究科）、山口悦司（宮崎大学）、稲垣成哲（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）

2P1-G12 代用教員（数学）授業体験事例報告—市立小山中学校非常勤臨時教師体験記—

○渡辺勇三（玉川学園高等部高学年数学研究室）

8. 特別企画

(1) 若手の会（受付は終了しました）

日時：8月24日（月）18時～20時 会場：京都市中京区（地下鉄沿線）を予定

[企画趣旨]

今回の若手の会は若手同士のネットワークづくりを目的とします。全国の科学教育関係者が集まる年に1度の機会を利用して、お互いの興味・関心や今後の展望を語り合います。年齢制限はございません。「若手」とは、あくまでも「自称の若手」です。「自分はまだまだ元気だ」「自分はバリバリ活躍するぞ」という方々が、この会合の対象者です。

(2) 企業展示

日時：8月25日（火）～26日（水）終日 会場：G会場（純正館3階S302教室）

企業による教材、教具、書籍などの展示・演示を予定しています。

9. 参加申込要領

(1) WEB 申込：終了いたしました。申し込みがまだの方は当日受付となります。

(2) 参加費：一般会員：7,000円、学生会員：5,000円（年会論文集代を含む）

(3) 懇親会：懇親会の参加は事前登録となります。WEB 申込で申し込んで下さい。

日時：8月25日（火）19時～21時

会場：同志社大学 寒梅館 Hamac de Paradis（アマーク・ド・パラディ）

参加費：5,000円

(4) 年会論文集（追加購入）：1部3,500円

(5) 年会論文集送料：年会に参加せず、論文集のみを希望される方には年会終了後に送料着払いでお送りいたします。配達時に送料を配送業者にお支払下さい。

(6) **総会時の弁当について**：大会日程をコンパクトにするため、25日（火）の総会および関連行事は昼食を食べながら行うことにしました。そのため、特に会員の方はお弁当を事前予約で申し込むようにしてください。弁当代（お茶付き）は600円です。なお、25日（火）は大学内の食堂は利用できません。

(7) **送金方法**：参加費の支払は、郵便振替で一人につき1枚、送金内容を明記して振り込んでください。送金方法は郵便振替に統一させていただきました。

振込先：【郵便振替口座】番号：00970-4-321216

名義：JSSE 第33回年会実行委員会

(注) ① 振込期限：8月8日（土）までとします。これ以降は振り込まないで当日会場にてお支払いください。

② 参加費の早割り値引き：8月8日（土）振込分まで、参加費を1,000円割引きます。

(8) **宿泊等の斡旋**：おこないませんので、各自で確保をお願い致します。

10. その他

○課題研究発表・一般研究発表について

- ・課題研究発表の発表形式については、オーガナイザーに一任しておりますので、オーガナイザーの指示に従ってください。
- ・課題研究のオーガナイザーは、所定の時間内に研究発表と総括討論がバランスよく行えるように時間の調整をしてください。
- ・一般研究発表での発表は、原則として5件あたり2時間ないし8件あたり3時間を配当してあります。1件の発表の持ち時間は20分（発表15分、質疑5分）です。鈴をそれぞれ予鈴12分、本鈴15分、終了鈴20分に鳴らします。時間厳守をお願いします。各時間帯の残りの20分は総括討議の時間です。
- ・発表者は、事前の休憩時間に会場係に申し出て、各自で使用機器の接続等についてチェックしてください。
- ・フロアの方が発言される際には、必ず「所属」と「氏名」を明らかにしてください。

○インタラクティブセッションについて

- ・発表を2グループに分け、セッションの前半、後半を責任発表担当時間といたしますので、ご承知置きください。指定された時間帯は、発表パネル前に常駐し、発表及び質疑応答をしてください。これをもって、発表したことを認定いたします。
- ・インタラクティブセッションの会場（G会場（純正館3階S302教室））は、企業展示会場および休憩室が併設されています。セッションの時間帯は26日（水）の12時45分～14時45分ですが、25日（火）朝から26日（水）のセッション終了時まで展示が可能です。可能な限り25日（火）の朝のうちからの展示にご協力ください。また、休憩時間等の発表時間以外にも積極的にご活用ください。

○発表機材について

- ・Macを使って発表される方はVGAディスプレイアダプタをご持参下さい。

○昼食について

- ・25日（火）はキャンパス内の食堂は営業しません。なお、大会日程をコンパクトにするため、25日（火）の総会および関連行事は昼食を食べながら行うことにしました。そのため、お弁当の事前予約をすることとしました。（9.（6）をご参照下さい。）
- ・26日（水）はキャンパス内の食堂（新心館リブレ）が営業いたします。ご利用ください。

○会場利用上の注意事項について

- ・年会期間中は、名札を必ず身に付けてください。
- ・G会場（純正館3階S302教室）に休憩室を併設します。ご利用ください。

・クローク業務をおこないます。場所は純正館3階 S307 教室です。

11. 年会実行委員会

[委員長] 余田義彦 (同志社女子大学)

[委員] 内村 浩 (京都工芸繊維大学)、大西俊弘 (龍谷大学)、小原 豊 (立命館大学)、
片岡佐知子 (奈良教育大学)、鈴木真理子 (滋賀大学)、大黒孝文 (同志社女子大学)

[連絡先] 〒 610-0395 京都市京田辺市興戸

同志社女子大学学芸学部情報メディア学科

余田義彦 E-mail: jsse33@gmail.com

12. 年会企画委員会

[委員長] 高藤清美 (筑波学院大学)

[副委員長] 銀島 文 (国立教育政策研究所)、山口悦司 (宮崎大学)

[年会担当理事] 加藤 浩 (放送大学)、佐伯昭彦 (鳴門教育大学)

[幹事] 谷塚光典 (信州大学)

[常任委員] 久保田善彦 (上越教育大学)、竹中真希子 (大分大学)、三宅志穂 (神戸女学院大学)

[委員] 青山和裕 (愛知教育大学)、生田 茂 (大妻女子大学)、魚住明生 (三重大学)、
奥野 光 (科学技術館)、茅野公穂 (信州大学)、寺田光宏 (岐阜聖徳学園大学)、
中原 淳 (東京大学)、二見尚之 (湘南工科大学)、松浦拓也 (広島大学)、
三崎 隆 (信州大学)、宮崎樹夫 (信州大学)、宮地 功 (岡山理科大学)、
森本弘一 (奈良教育大学)、余田善彦 (同志社女子大学)

13. 第33回年会ホームページ: <http://certcms.shinshu-u.ac.jp/jsseam/>

お知らせ

メールマガジンの発刊について

■ ■ ■ S S E

科学教育メールマガジン 2009年6月8日

発行: 日本科学教育学会 <http://www.jsse.jp/>

メールマガジン発刊にあたってのご挨拶 (2009年6月8日)

日本科学教育学会会長 吉田 淳

このたび、日本科学教育学会ではメールマガジンを開設し、学会員への情報提供を行うことになりました。日本科学教育学会では学会ホームページを通してさまざまな情報が提供されていますが、ついすっかり見過ごしてしまうことも少なくないと思います。メールの形で学会員一人一人に連絡することにより、そこから皆様が年会や研究会、その他の重要な情報を入手するとともに、円滑に対応できることを目指しました。

私たちは学会会員の皆様が科学教育に関するさまざまな情報を獲得したり、ある時には発信したりして、学会会員の相互交流が促進されることを期待しています。科学教育に関連する国内外のさまざまな資料や情報を共有し活用していただいてこそ、科学教育の研究面だけではなく科学教育のリーダーとして活躍していただけることと思います。

昨年改訂された教育課程では理数科教育の充実、情報教育の充実が盛り込まれており、科学教育における理論面、実践面の研究が求められていると考えます。科学教育における斬新な理

論や具体的な教材についてのアイデア、学習指導の工夫など一人一人の研究を通して、これからの科学教育の充実や発展に寄与していただきたいと願っております。

本学会のメールマガジンでは学会ホームページにリンクし、学会におけるさまざまな情報提供、年会情報の閲覧、研究発表申し込みなどを行っていただけたらと思います。また、学会会員の皆様から寄せられるご意見や科学教育に関するさまざまな情報も、会員全体にお伝えすることもできるようにしたいと思います。

学会会員の皆様の中には、毎日のようにメールによる通信を行っている方が多いと思います。忙しい方も時々JSSEのメールが届いていないかメールボックスを見ていただきたいと思います。

(※本稿は、6月8日付けのメールマガジンにて送信されたものです。)

◆メールマガジンの受信を希望される会員へ

学会からの情報の送付先のメールアドレスが事務局に登録されている会員を対象に、メールマガジンの発行を6月から開始しました。

この機会に、メールマガジンがお手元に届くように、メールアドレスの登録をお願いします。すでに、届いている方には、今後も送信されます。まだ、一通も届いていないという方は、次の書式で事務局へメールマガジンの登録申請をメールによって行ってください。

----- メールにて、jsse@nacos.com に送信してください -----

件名：メールマガジン用メールアドレスの登録依頼

氏名：

JSSE 会員番号：(ご不明な場合は未記入でも可)

勤務先メールアドレス：

自宅メールアドレス：

メール配信先： 勤務先 自宅 (いずれかを残す)

※必ず、メールマガジンを受信したいアドレスから申請のメールを送信してください。

メールマガジンは自動配信です。返信して頂いても、ご質問・ご依頼などにはお答えできません。ご意見、問い合わせは、学会事務局、または広報委員会へお願いします。

日本科学教育学会 学会通信

編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

担当理事：東原義訓 (信州大)	荻原 彰 (三重大)	
委 員：加藤久恵 (兵庫教育大)	二宮裕之 (埼玉大)	土田 理 (鹿児島大)
丹沢哲郎 (静岡大)	渡辺政隆 (科学技術振興機構)	
小倉 康 (国立教育政策研)	久保田善彦 (上越教育大)	
幹 事：福井智紀 (麻布大)	茅野公穗 (信州大)	平野俊英 (愛知教育大)

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内

事務支局 (入退会・会費・学会誌発送関連) TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : jsse@nacos.com

編集事務局 (論文投稿・査読編集)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : jsse-hen@nacos.com

中西印刷 (株) 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会